

平成26年度 12月定例会会議録（概要）

◎招集年月日 平成26年12月16日（火）

◎開催日時 平成26年12月24日（水） 午後3時30分～午後5時35分

◎場 所 市役所 議会第2委員会室

◎出席委員 松田教育委員長、宮脇職務代理者、平澤教育委員、田畑教育委員

◎欠席委員 なし

◎出席職員 北原教育長、原教育次長、北野学校教育課長、森田生涯学習課長、酒井スポーツ振興課長、小松高遠長谷教育振興課長、中村指導主事、山崎教育総務係長

1 開 会（教育次長）

2 委員長あいさつ

3 委員の一言（職務代理者）

4 会議事項

第1 教育長報告

- ・資料に基づき教育長報告
（質疑なし）

第2 議案

議案第1号 伊那市教育委員会事務局職員の任免について

- ・資料に基づき学校教育課長説明
- ・委員長が諮ったところ、提案のとおり承認された。

第3 協議事項

（1）市長との懇談について

- ・資料に基づき学校教育課長説明
- ・委員長から、スポーツ振興と市民体育祭について担当に見解が問われ、スポーツ振興課長より、施設面は検討中であること、市民体育祭について、在住、在勤、在学の取り扱いに変更はなく、多くのスポーツ組織の構成員が高齢化していることへの解決策は見い出せていないとの説明があった。
- ・委員長から、現状を受けて具体的な提案をした方がいい。今度、総合教育会議へ移行した場合、教育委員会として政策提案能力が求められるとの意見があった。
- ・委員長から、学童保育のカリキュラムについて、担当の考える方向性が問われ、生

涯学習課長より、提案は放課後学習に近く、厚生労働省の管轄である学童保育は留守家庭の代替となるものであるとの説明があった。

- ・委員から、学力向上を目的とするのではなく、人間力の強化、社会性の獲得を目指した家庭教育における躰を補完する仕組みが欲しいとの意見があった。
- ・委員長から、実際の学童保育の現場では、限られた指導員の配置から、児童にけがをさせないようにみているのが精一杯の状況ではないかとの意見があった。
- ・学校教育課長から、前回も同じテーマで懇談しており、市長から各学童クラブの特色を活かす、児童の道徳心、礼節を育むといった一定の考えは示されているとの発言があった。
- ・委員から、具体的に何ができるのか話し合いをしたいとの意見があった。
- ・委員長から、前回の懇談を受けて具体的に質問していくような形が望ましいとの意見があった。
- ・委員長が懇談内容のとりまとめを行い、

総合教育会議の持ち方、事務局、大綱の策定、新教育長の職務代理者を内容とする

①総合教育会議について 【提案者；委員長】

事例発表会の開催、事例発表会の公開による情報発信、事例発表会への講師の招聘を内容とする

②本格的農業体験活動 【提案者；職務代理者】

全国の体力テスト結果を受けた

③伊那市の中学生の体力向上 【提案者；平澤委員】

先進事例に学ぶ

④学童保育の充実 【提案者；田畑委員】

の4点とすることとなった。

- ・職務代理者から、給食食材生産活動について、統一したわかりやすい呼び名が欲しいの意見が出され、学校教育課長より事務的に「本格的農業体験を組み入れた食育実践」としているが、特色ある対外的にアピールできる的確なものがよいとの説明があった。
- ・委員長から、課題として考えておくよう指示があった。

(2) 【非公開】学校給食費について

- ・資料に基づき学校教育課長説明

第4 報告事項

(1) 市議会 12月定例会一般質問から

- ・資料に基づき教育次長説明

(質疑なし)

(2) 平成 27 年度全国学力・学習状況調査の実施について

- ・資料に基づき学校教育課長説明
- ・委員長より、伊那市では競争を煽る、或いは序列化につながる学校ごとのテスト結果の公表はしないという考えを踏襲していくことを前提に、テスト実施していくことが確認された。

(3) 伊那市シティプロモーション戦略について

- ・資料に基づき学校教育課長説明
- ・資料に基づき生涯学習課長説明
- ・委員長から、シティプロモーションのアクションプランについて委員に意見が求められ、委員より、学校を全開放し、地域の老人クラブや公民館の人たちが学校の中に入って授業展開することを行っている江戸川区の学童クラブの取り組みが紹介され、先進地の視察を通じ、地域の大人の参画による学童クラブの充実が求められているとの発言があった。
- ・委員長から、江戸川区の取り組みを具体的事例として市長懇談で示すよう指示があった。
- ・委員長から、子どもが集う公民館を実現するために、公民館活動を子どもたちに寄り添った形にしておく必要があり、農業クラブの立ち上げを長谷公民館に働きかけていることが報告され、伊那地区以外の適正規模の公民館から取り組んでいけば実践できるのではないかと。また、農業体験学習を信州型コミュニティ・スクールの核にする学校が多く特色ある取り組みになっていく。そうした取り組みをアクションプランに加えて欲しいとの発言があった。
- ・教育長から、12番の小学生を対象とした職業の模擬体験について、小学校カリキュラムへの組み込みと短時間内で成果を上げることは難しく、食育に重点を置く現状からも、導入により子どもたち、先生ともパンクしかねない。導入にあたり精査し慎重に行わなければならないとの意見があった。
- ・教育次長から、公民館事業は18番の「伊那市型教育モデル事業体験学習会」に組み込めるのではないかと発言があり、委員長より、その場合、担当課を学校教育・生涯学習両課とすることは可能かと質問があり、教育次長から、学校教育課が主体になるため可能であり、文科省でも研究事業として公共施設を学校に集める施設の複合化を進めている。ハード面の複合化に合わせ、ソフト面での複合化の方向性が予想されたとの説明があった。
- ・委員から、江戸川の事例でも、「公民館に来てください」に加え、「公民館がやってくる」という形式をとっている。公民館で活動している人が夕方学校に来て、そこで公民館活動をやってくれるというようなイメージだと発言があった。
- ・委員長から、文科省の研究事業は公開されているのではとの質問があり、教育次長より、あると思う。ただし、学校の全開放には、学校の先生方の意識改革が不可欠

であり、施設管理面からも簡単ではないとの説明があった。

(4) 少年補導街頭活動の状況について

- ・資料に基づき生涯学習課長説明
- ・委員長から、「子どもが外へ出る機会が少なく家の中で何をしているか不明」とあるが、インターネットなどの利用が関係しているのか。外で戯れていた子どもの世界が変質し、雪が降ってもそりすべりもしない不自然な状況に懸念が示された。
- ・委員から、親の側に、街に子どもをひとりで出すことに恐怖感がある。小学生の子どもを外に遊びに行かせることはなく、友達の家へ親が送り、遊びは、ゲーム機使用のものが主体で、屋外で駆け回るようなあそびの経験を持つ子どもはほとんどいないとの発言があった。
- ・職務代理者から、子どもであっても車に同乗して歩かない。そうした影響が体力の低下に現れているのではとの意見があった。
- ・委員から、休日にも公園に子どもがいない現状について発言があった。
- ・委員長から、そうした現状が明らかになり、子どもたちが郊外に出て自然の中で遊ぶというキャッチフレーズの下生まれた生活科も、形骸化してきており、ものを作ればいいと図工の授業と取り違えるような誤解をしている教師が見受けられ、心配しているとの発言があった。

(5) 共催・後援について

- ・資料に基づき学校教育課長説明
(質疑なし)

(6) 【非公開】学校事故速報・給食への異物混入について

(7) 【非公開】不登校及び不登校傾向児童生徒数の実態調査について

(8) 【非公開】いじめに関する実態調査について

- ・資料に基づき指導主事説明

(9) その他

- ・スポーツ振興課長から、小中学校陸上記録会のあり方について、校長会に投げかけをしていることが報告された。

5 その他（教育次長）

(1) 1月の日程について

(2) 2月の主な日程について

- ・2月定例会 2月25日（水）午後1時00分 伊那公民館
公民館長との懇談 同日 午後3時30分 //

6 閉 会 (委員長)